

太田川水系逆川 洪水浸水想定区域図（計画規模）



- 1 説明文**
- この図は、太田川水系逆川の水位周知区間について、水防法の規定に基づき計画降雨により浸水が想定される区域と、当該区域が浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
 - この洪水浸水想定区域図は、指定時点の逆川の河道の整備状況を勘案して、洪水防備に関する計画の基本となる年超過確率1/50(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50(2%))の降雨に伴う洪水により逆川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
 - なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(伏流による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。
- 2 基本事項等**
- 作成主体 静岡県
 - 指定年月日 平成29年12月26日
 - 告示番号 静岡県告示第889号
 - 指定の根拠法令 水防法(昭和24年法律第193号)第14条第2項
 - 対象となる水位周知河川
 - ・太田川水系逆川(実施区間)
 - 左岸：掛川市逆川下橋から原野谷川合流点まで
 - 右岸：掛川市千羽鞍下橋から原野谷川合流点まで
 - 指定の前提となる降雨 太田川流域の24時間の総雨量355.1mm
 - 関係市町村 掛川市、袋井市
 - その他の計算条件等
 - この図は、逆川の水位周知区間で破壊した場合の洪水浸水想定区域図を示しています。
 - この図は、逆川の原野谷川合流点より上流において、一定の条件で破壊させた時の氾濫解析計算結果を基に作成したものです。
 - 氾濫計算は、対象区間をおよそ25m間隔の格子(計算メッシュという)に分割して、これを1単位として水深を計算しているため、微地形による影響が反映できない場合があります。
 - 洪水浸水想定区域は、氾濫計算結果から計算メッシュ毎の想定浸水位を算出し、隣接する計算メッシュとの連続性や連続盛土構造物(道路や鉄道の盛土など)等を考慮して図化しています。



凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

5.0~10.0m
3.0~5.0m
1.0~3.0m
0.5~1.0m
0.3~0.5m
0.3m未満

- - - - 市町村境界
 〰 河川等範囲
 洪水浸水想定区域の指定の対象となる水位周知河川

